

カナダの養豚・豚肉産業の現状と見通し



alicセミナー 平成29年6月28日
独立行政法人農畜産業振興機構
調査情報部 野田 圭介
<https://www.alic.go.jp/>

1 はじめに

2 現状

(1) 世界におけるカナダ産豚肉

(2) 養豚・生体豚輸出の動向

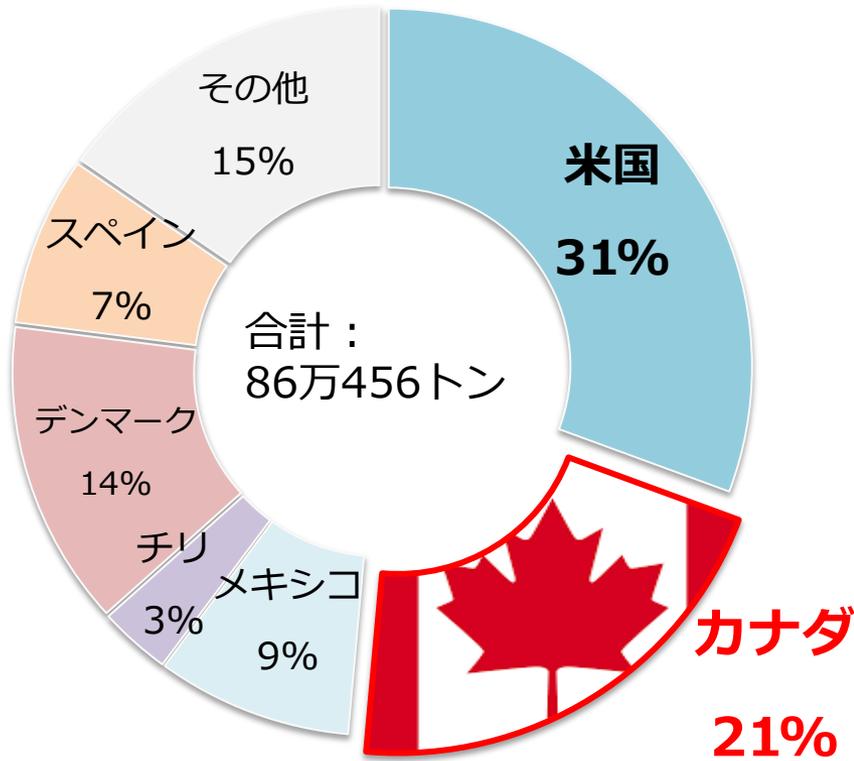
(3) 豚肉需給の動向

3 見通し

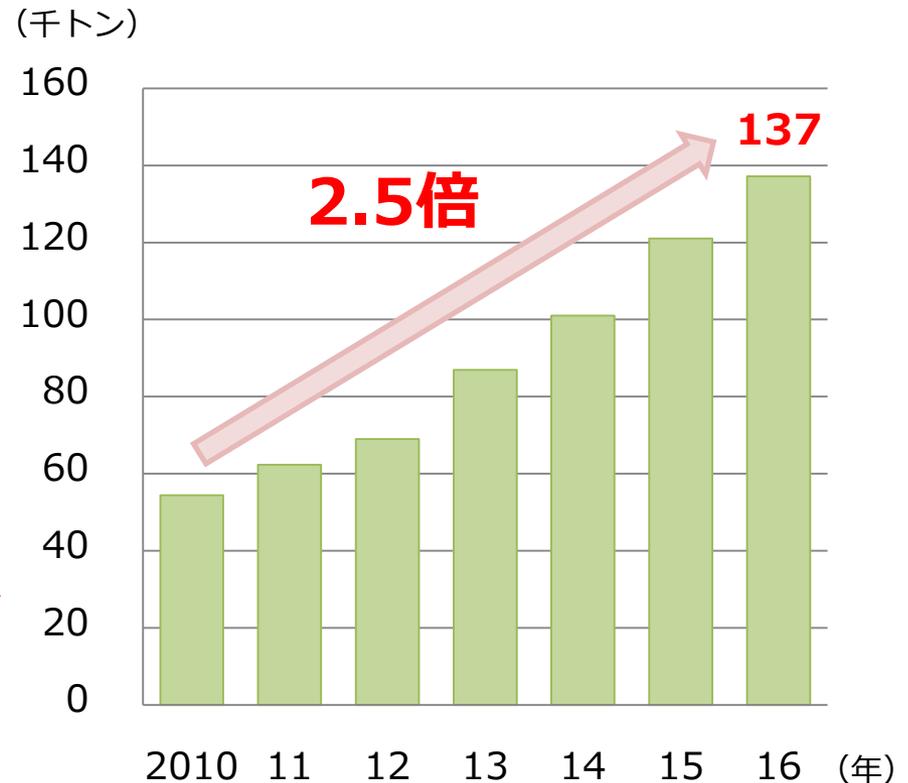
4 まとめ

- 日本にとって **カナダ** は米国に次ぐ豚肉輸入先国
- チルド豚肉輸入量は増加傾向で推移

日本の豚肉輸入先国（2016年）



日本のカナダ産チルド豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

注1：部分肉換算。

注2：チルド・フロースンの合計。くず肉を含む。

資料：財務省「貿易統計」

注：部分肉換算。

1 はじめに

2 現状

(1) 世界におけるカナダ産豚肉

(2) 養豚・生体豚輸出の動向

(3) 豚肉需給の動向

3 見通し

4 まとめ

主要国の豚肉生産量および輸出量（2016年）

豚肉生産量

順位	国名	千トン	シェア
1位	中国	52,990	48.2%
2位	EU	23,400	21.3%
3位	米国	11,319	10.3%
4位	ブラジル	3,700	3.4%
5位	ロシア	2,870	2.6%
6位	ベトナム	2,675	2.4%
7位	カナダ	1,955	1.8%
8位	フィリピン	1,540	1.4%
9位	メキシコ	1,376	1.3%
10位	韓国	1,266	1.2%
合計		109,853	100.0%

豚肉輸出量

順位	国名	千トン	シェア
1位	EU	3,126	37.6%
2位	米国	2,374	28.5%
3位	カナダ	1,319	15.9%
4位	ブラジル	832	10.0%
5位	チリ	173	2.1%
6位	中国	191	2.3%
7位	メキシコ	141	1.7%
8位	豪州	38	0.5%
9位	ベトナム	35	0.4%
10位	ロシア	25	0.3%
合計		8,317	100.0%

資料：米国農務省（USDA）

注：枝肉重量ベース。

主要国の豚飼養頭数および生体豚輸出頭数（2016年）

飼養頭数

順位	国名	頭数（千頭）	シェア
1位	中国	451,130	57.5%
2位	EU	148,716	18.9%
3位	米国	68,919	8.8%
4位	ブラジル	39,422	5.0%
5位	ロシア	21,345	2.7%
6位	カナダ	13,510	1.7%
7位	韓国	10,187	1.3%
8位	メキシコ	9,917	1.3%
9位	日本	9,913	1.2%
10位	ウクライナ	7,240	0.9%
合計		785,176	100.0%

生体豚輸出頭数

順位	国名	頭数（千頭）	シェア
1位	カナダ	5,667	74.8%
2位	中国	1,552	20.5%
3位	EU	281	3.7%
4位	米国	49	0.6%
5位	ウクライナ	10	0.1%
6位	ロシア	7	0.1%
7位	ベラルーシ	5	0.1%
8位	ブラジル	2	0.0%
合計		7,573	100.0%

養豚に適した環境

- 広い国土
- 冷涼な気候
- 豊富な飼料穀物

小規模な国内市場

- 人口：約3,600万人
※日本の約4分の1

+隣り合う巨大な市場（米国）
+北米自由貿易協定（NAFTA）

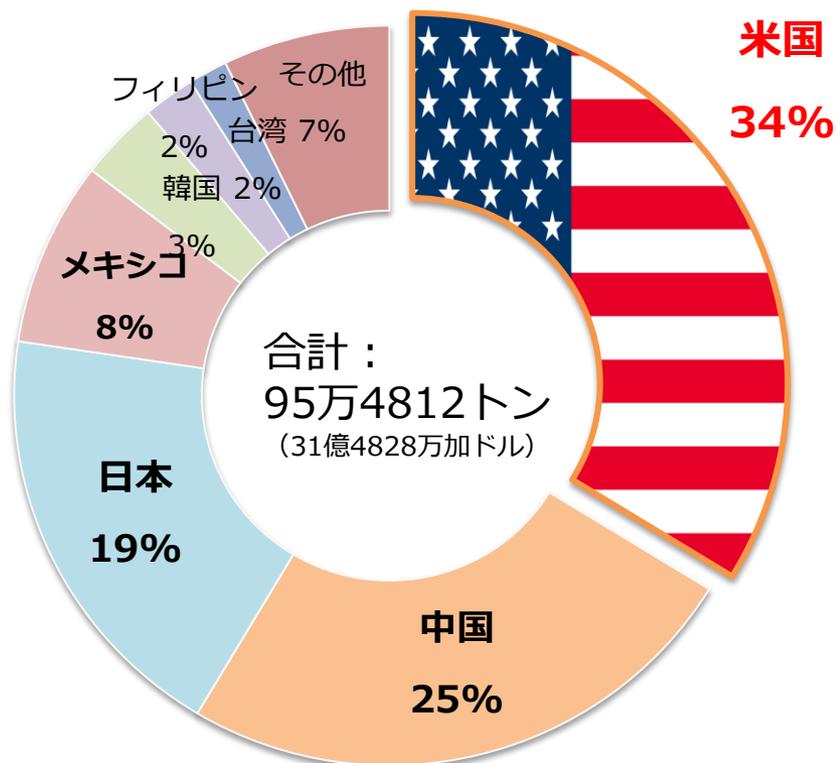


輸出の占める割合が大きい

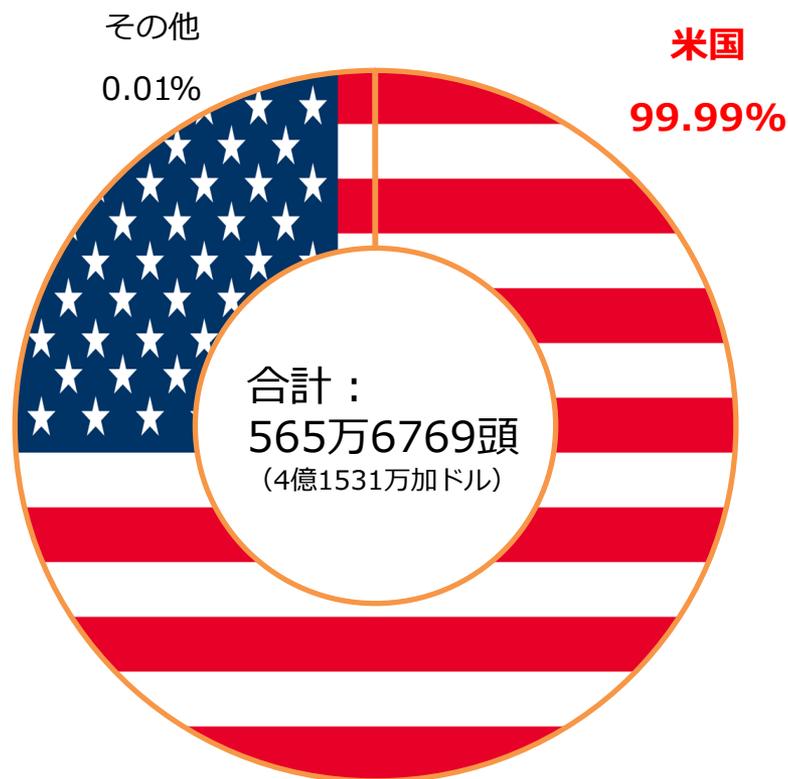
➤ 豚肉の最大輸出先は **米国**

➤ 子豚・肥育豚は ほぼ全てが **米国** 向け

カナダの豚肉輸出先国（2016年）



カナダの生体豚輸出先国（2016年）



資料：Canada Pork International
原資料：カナダ統計局（Statistics Canada）

資料：Statistics Canada

1 はじめに

2 現状

(1) 世界におけるカナダ産豚肉

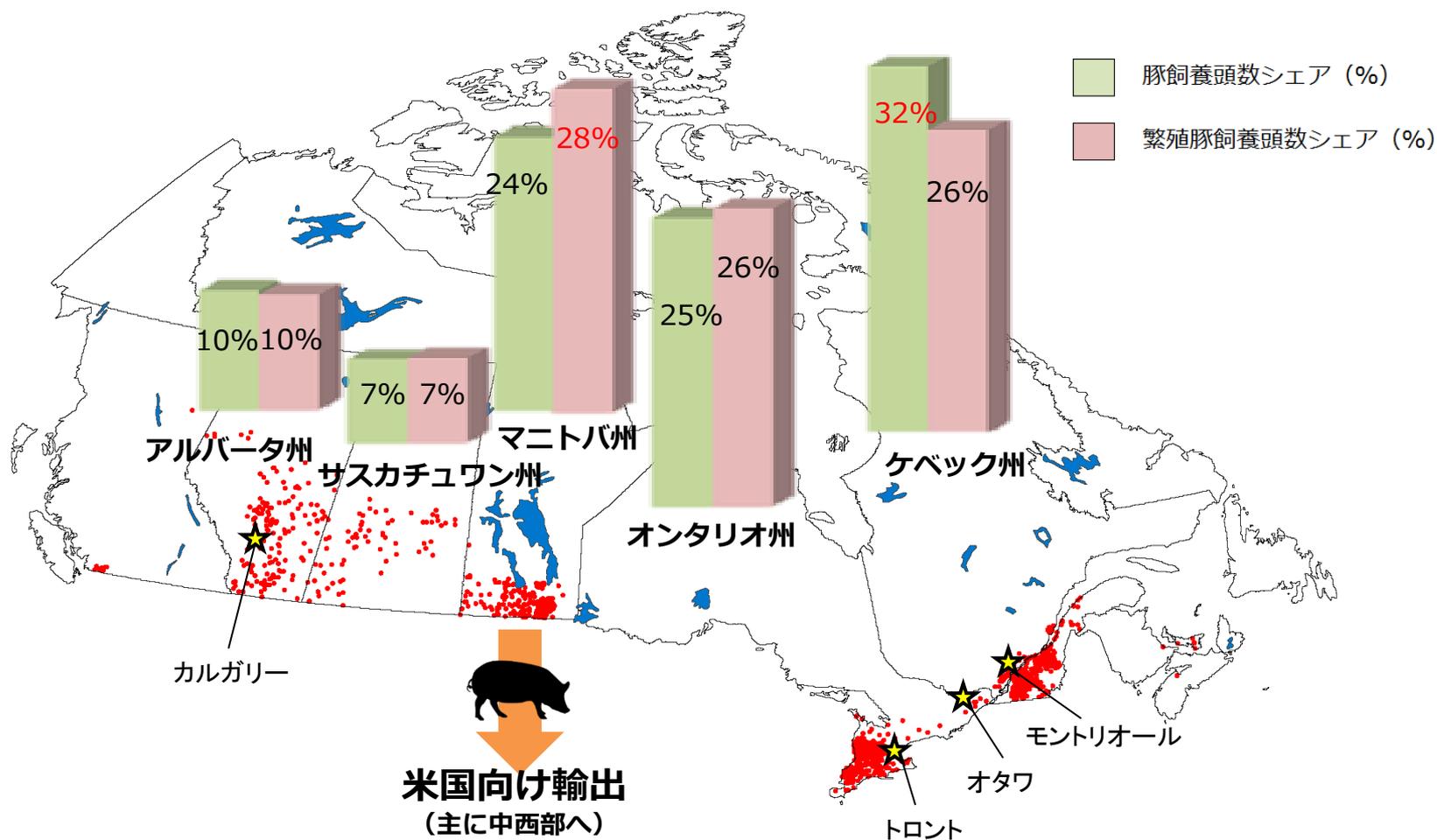
(2) 養豚・生体豚輸出の動向

(3) 豚肉需給の動向

3 見通し

4 まとめ

➤ 飼養地域は3州に集中



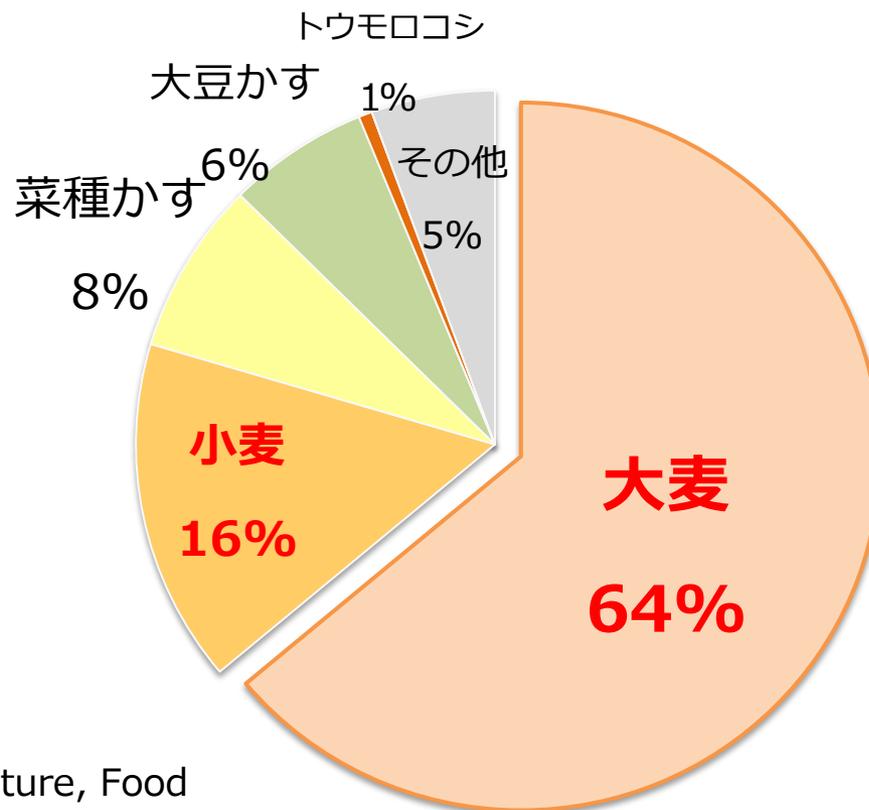
資料：Statistics Canadaの各種資料を基に機構作成。

注1：赤い点1つが豚1万頭を表す（2011年時点）。

2：シェアの数値は2016年時点。

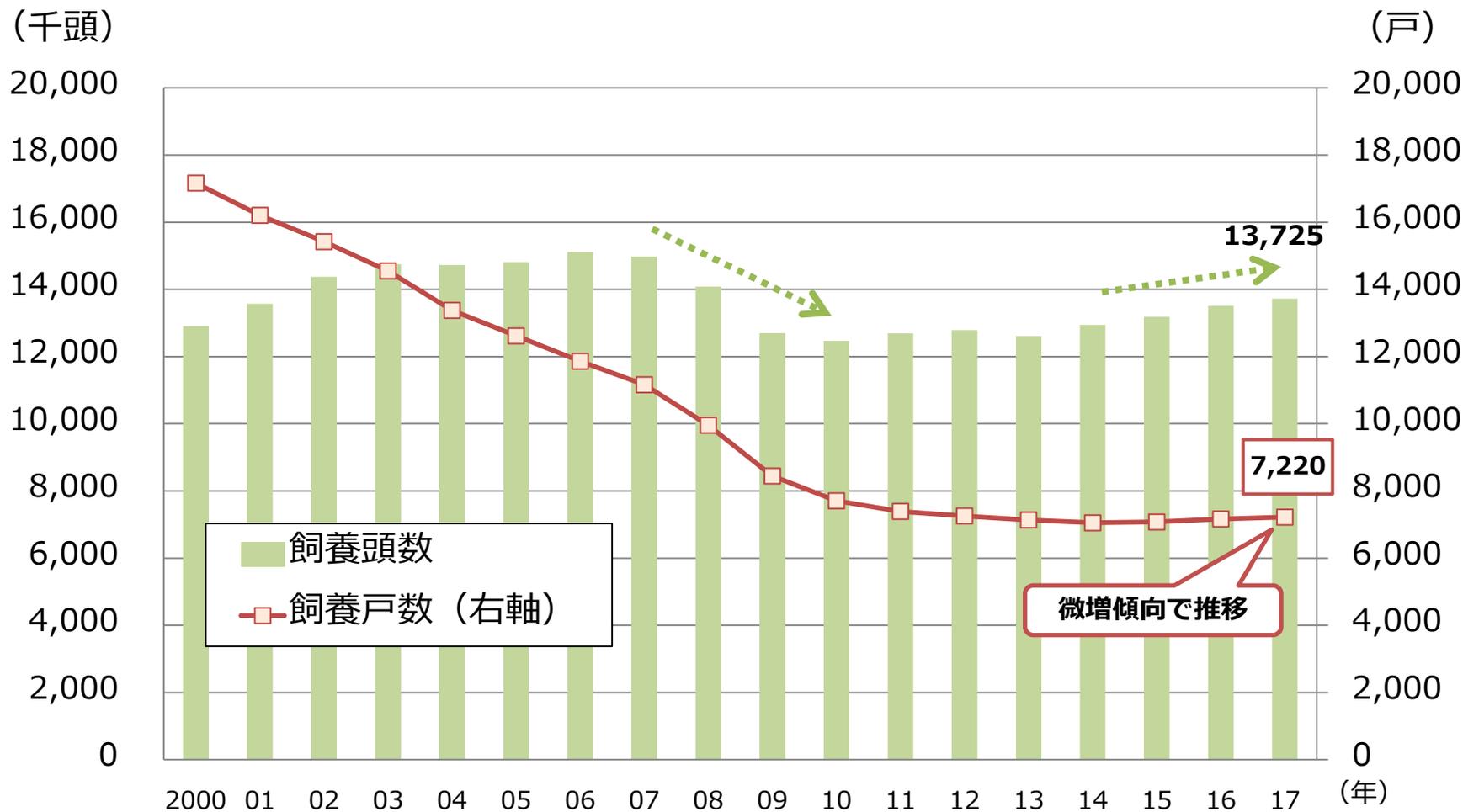
- 東部では **トウモロコシ・大豆かす** が主体
- 西部では **大麦・小麦** が主体

マニトバ州の一貫経営農場における
品目別飼料穀物等の使用割合の例（2015年）



資料 : Manitoba Agriculture, Food and Rural Development

➤ 飼養頭数と飼養戸数は回復傾向で推移

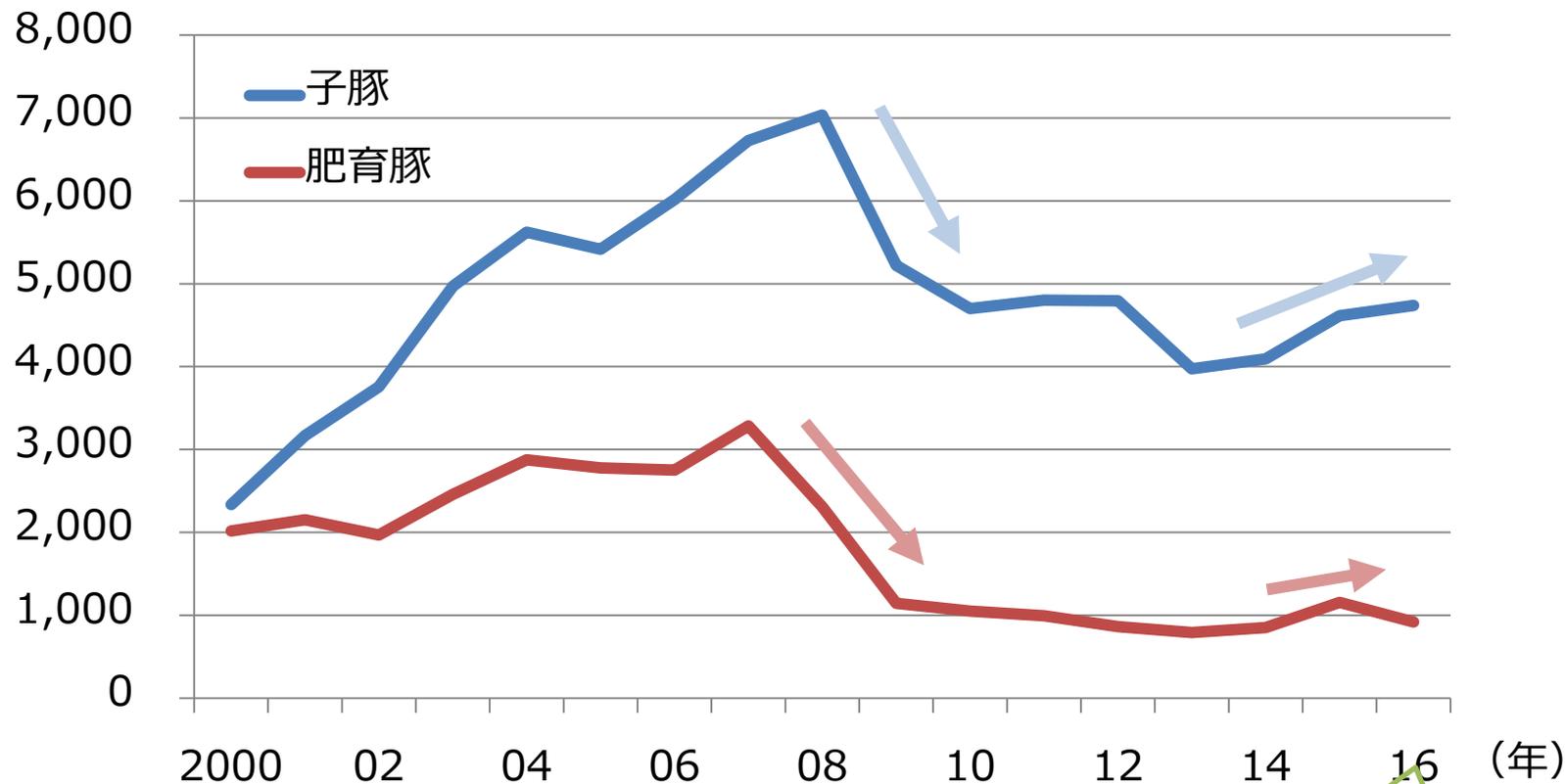


資料：Statistics Canada
 注：PED…豚流行性下痢

米国でPED多発

➤ 生体豚輸出も増加傾向で推移

(千頭)



資料 : Statistics Canada

COOL施行

米国でPED多発

COOLから豚が除外

注1 : COOL…米国における原産地表示規則 (Country of Origin Labeling)

注2 : PED…豚流行性下痢

1 はじめに

2 現状

(1) 世界におけるカナダ産豚肉

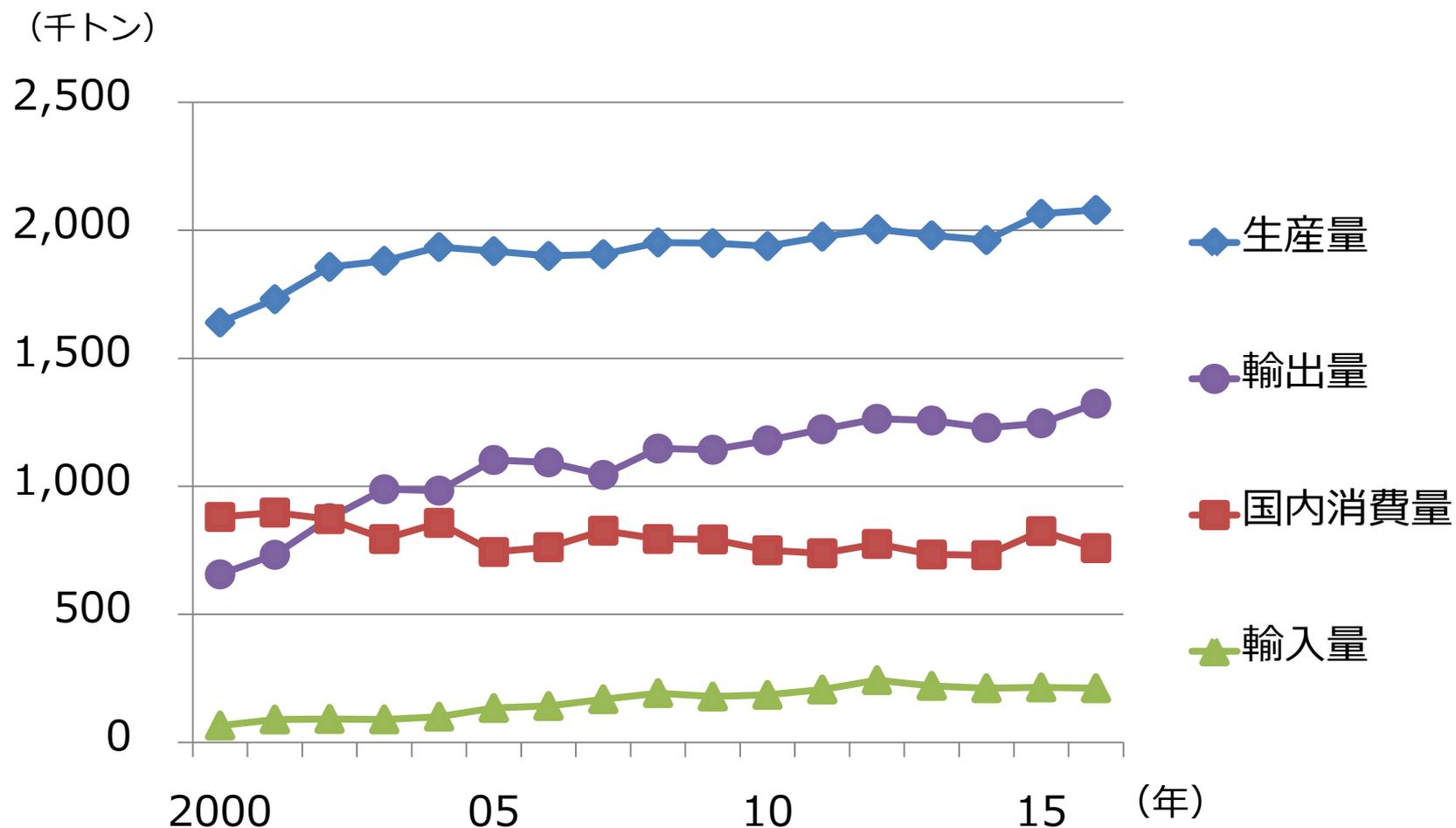
(2) 養豚・生体豚輸出の動向

(3) 豚肉需給の動向

3 見通し

4 まとめ

➤ 豚肉生産量・輸出量ともに増加傾向で推移

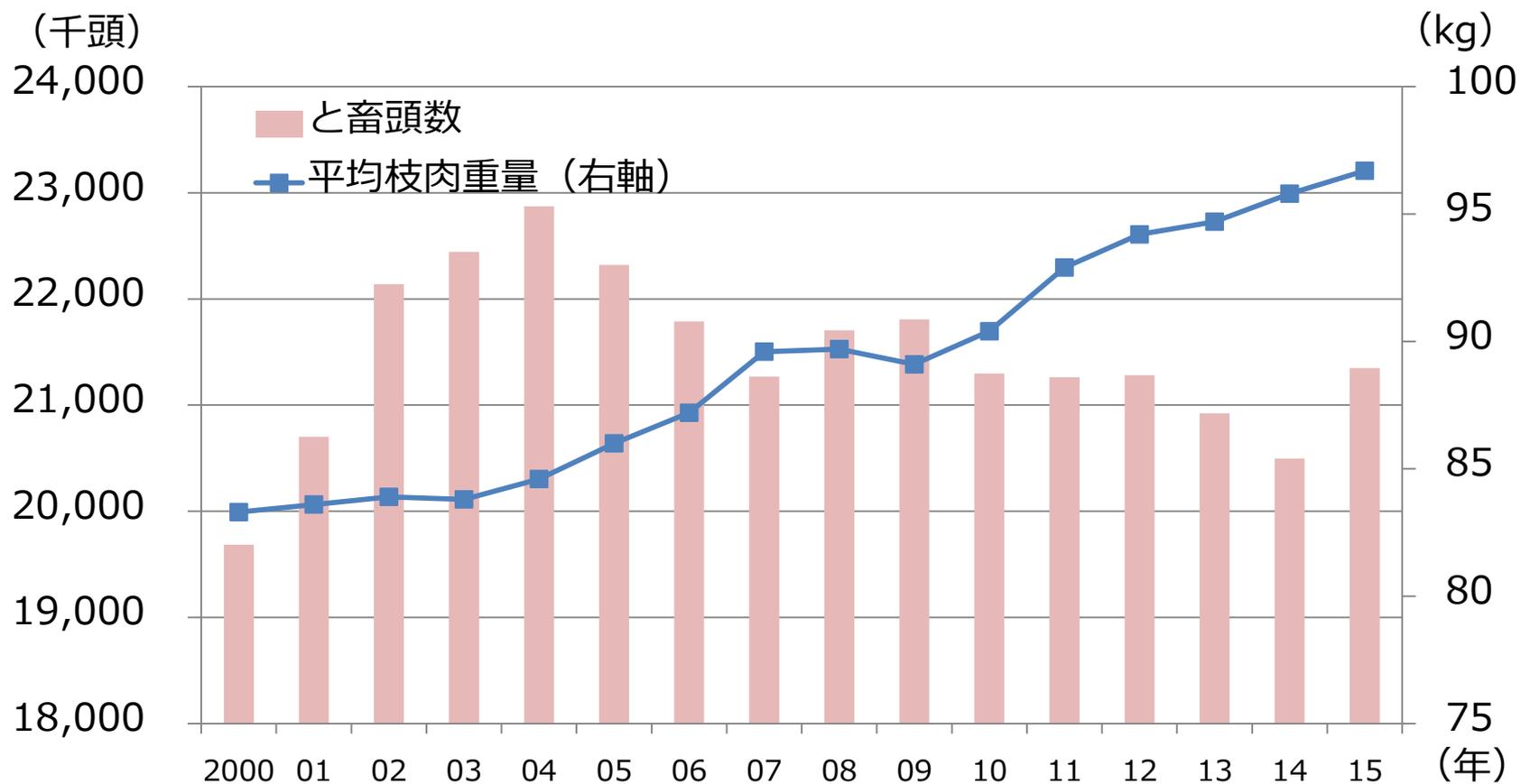


資料 : Statistics Canada

注 1 : 枝肉重量ベース。

注 2 : 輸出量は再輸出分を含む。

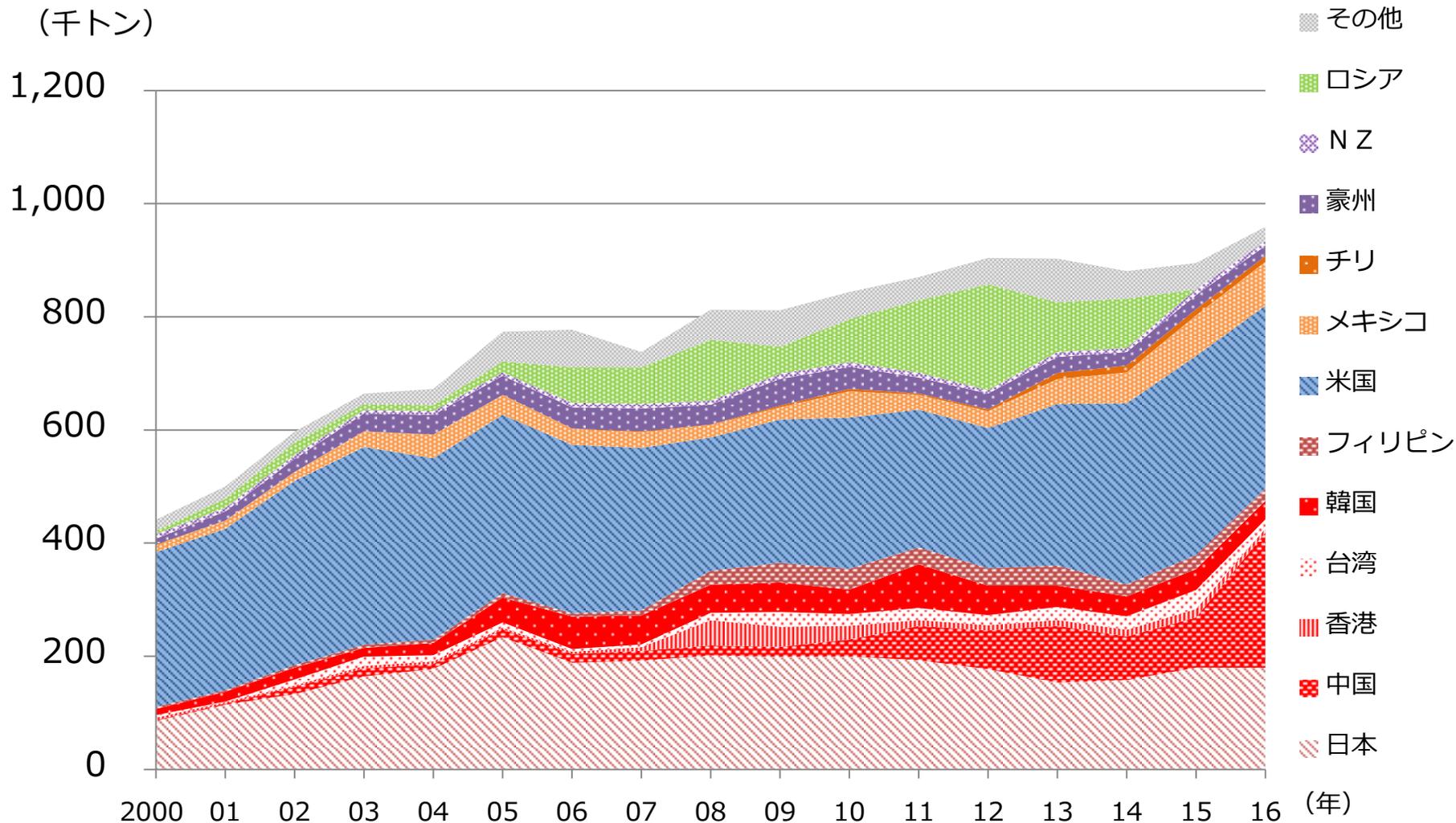
- 平均枝肉重量は増加傾向で推移
- と畜頭数は2015年、前年を上回る



資料 : Statistics Canada

注 : 枝肉は頭付き。

➤ 2000年時点に比べ、輸出量は倍増し、輸出先は多角化



資料：「Global Trade Atlas」

注：HS0203。

➤ 豚肉貿易環境の変化

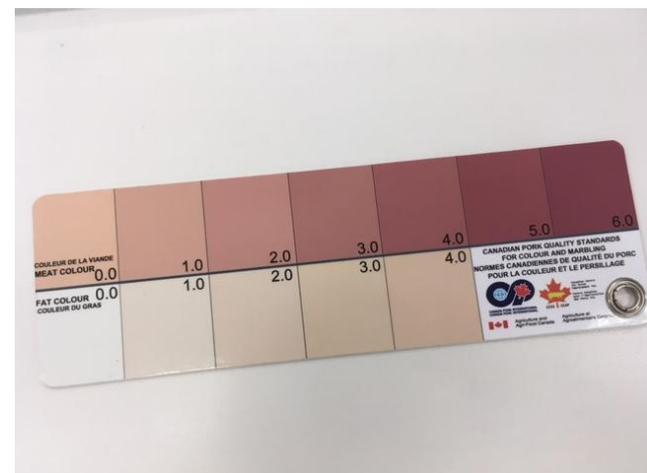
- ・ 中国の豚肉需要の増加

➤ 業界の取り組み

- ・ カナダ品質保証プログラム（CQA）
- ・ トレーサビリティの法制化（2014年）

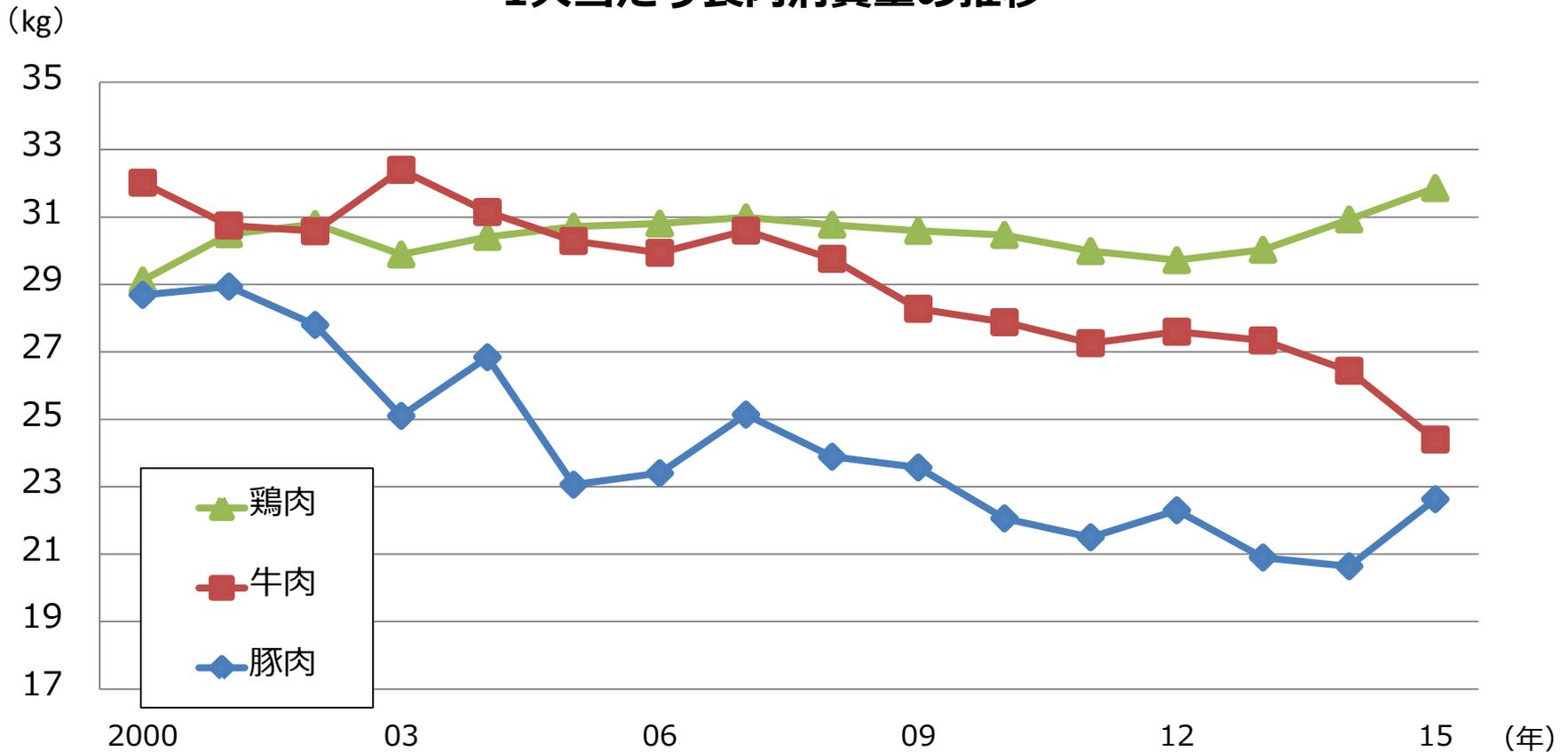
⇒ **高品質・安全性をアピール**

写真：日本の格付規格を参考に作成された
『カナダポーク・クオリティスタンダード』
（上段は肉色、下段は脂肪色）



➤ 1人当たり豚肉消費量は2015年に回復

1人当たり食肉消費量の推移



資料 : Statistics Canada

注 : 豚肉と牛肉は枝肉重量ベース、鶏肉は中抜き重量ベース。

➤ 豚肉チェックオフ制度

生産者から課徴金を徴収し、プロモーション活動などに充てることを目的とする。現在、連邦レベルでの導入に向けた動きがある。

➤ 地産地消の取り組み（ケベック州）

2010年頃より、州内で生産された豚肉の安全性や品質をアピールすることで地元での消費拡大を図っている。



写真：ケベック州産豚肉であることを示すシールが張られた商品（2016年7月撮影）

メープルリーフ社

- ・ マニトバ州に拠点のあるカナダ最大の豚肉生産企業。
- ・ ブランドン工場では1日当たり1万8000頭処理可能。
- ・ アニマルウェルフェアに積極的に取り組む。

オリメル社

- ・ ケベック州に拠点のあるカナダ最大の農協系食品企業。
- ・ 2016年6月に処理能力の拡大計画を発表。一層の生産性向上に注力。
- ・ 日本・豪州向けに加え、韓国向けの輸出増を視野に入れている。

ハイライフ社

- ・ マニトバ州に拠点のあるカナダ最大の養豚企業。
- ・ 2012年より日本の商社からの出資を受け入れた。
- ・ 日本市場に加え、中国市場への輸出に力を注ぐことを計画している。

現状

豚舎新設規制



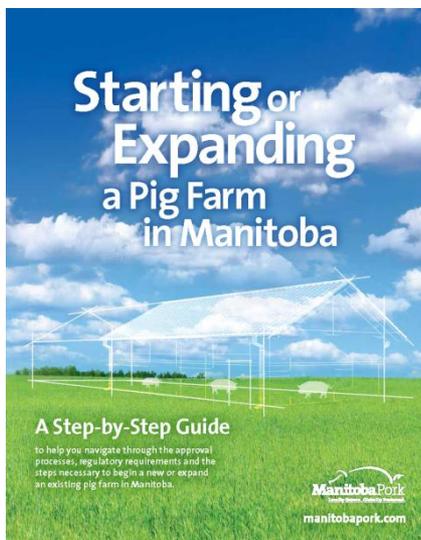
生体豚の増産に制限



と畜場稼働率の低下

規則撤廃に向けた動き

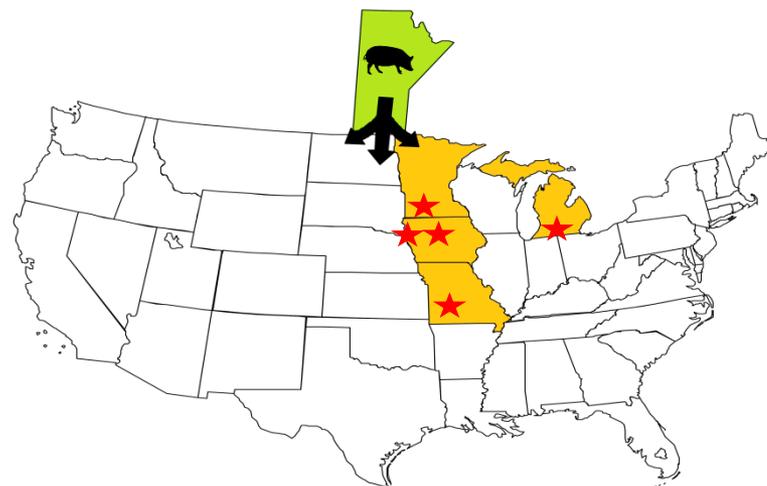
⇒ 生体豚生産頭数の増加



▲ 豚舎新設に関するガイドライン

米国中西部における と畜場の新設（5カ所）

⇒ 生体豚輸出の増加



1 はじめに

2 現状

(1) 世界におけるカナダ産豚肉

(2) 養豚・生体豚輸出の動向

(3) 豚肉需給の動向

3 見通し

4 まとめ

USDAによるカナダの養豚・豚肉産業の見通し

(単位：千頭、千トン)

		2015年	2016年	2017年	前年比 (増減率)
生体豚	飼養頭数	13,180	13,510	13,725	1.6%
	輸出頭数	5,776	5,667	5,750	1.5%
豚肉	生産量	1,899	1,955	1,950	▲0.3%
	輸出量	1,239	1,319	1,300	▲1.4%

資料：USDA

注：豚肉の生産量・輸出量は、枝肉重量ベース。

➤ 飼養頭数は増加も、生体豚輸出は増加し、**豚肉の生産・輸出量は減少**

➤ **疾病の発生**

- マニトバ州でPEDが発生

➤ **豚肉貿易をめぐる情勢の変化**

- 中国の豚肉輸入動向
- 北米自由貿易協定（NAFTA）再交渉

1 はじめに

2 現状

(1) 世界におけるカナダ産豚肉

(2) 養豚・生体豚輸出の動向

(3) 豚肉需給の動向

3 見通し

4 まとめ

現状

- カナダの養豚産業は低迷期を脱し、拡大傾向へ
- 豚肉は生産・輸出ともに堅調に推移

見通し

- 2017年は、豚肉の生産・輸出が減少見込み
- 生体豚の調達が課題
- 貿易環境の変化に注目

ご清聴ありがとうございました。

「畜産の情報」2016年10月号に掲載しております。

※ メールマガジンのご案内

独立行政法人農畜産業振興機構は、情報誌「畜産の情報」を毎月発行し、ホームページでも提供しているほか、メールマガジンにより、毎月2回（5日、25日）、最新の情報を配信しています。

メールマガジンの配信を希望される方は、機構ホームページ（<https://www.alic.go.jp>）右の「メールマガジン」ボタンからご登録ください。

